

Technical Report Documentation Page

1. Report No. UMTRI-2015-34		2. Government Accession No.		3. Recipient's Catalog No.	
4. Title and Subtitle 実社会での自動運転車両が関わる事故に関する予備調査				5. Report Date October 2015	
				6. Performing Organization Code 383818	
7. Author(s) Brandon Schoettle and Michael Sivak				8. Performing Organization Report No. UMTRI-2015-34	
9. Performing Organization Name and Address The University of Michigan Transportation Research Institute 2901 Baxter Road Ann Arbor, Michigan 48109-2150 U.S.A.				10. Work Unit no. (TRAIS)	
				11. Contract or Grant No.	
12. Sponsoring Agency Name and Address The University of Michigan Sustainable Worldwide Transportation				13. Type of Report and Period Covered	
				14. Sponsoring Agency Code	
15. Supplementary Notes Information about Sustainable Worldwide Transportation is available at http://www.umich.edu/~umtriswt .					
16. Abstract この研究では、現在カリフォルニア州で車両テストが承認されている 10 社のうちの 3 社 (Google、Delphi、Audi) の自動運転車両の累積的な道路上での安全記録に関する予備分析を実施した。分析では、2013 年における米国でのこれら自動運転車両と全ての従来車両の安全記録とを比較した。(死亡事故以外の未報告の事故件数も含める調整を実施。) 調査結果に関しては、2つの重要な注意を考慮するべきである。第一に、自動運転車両の累積運転距離はまだ比較的少ない。(従来車両の米国での年間走行距離およそ 3 兆マイルに対して、およそ 120 万マイル。) 第二に、自動運転車両が走行するのは今のところ限定的な(そして一般的に難しくなく)条件である。(例えば、降雪地域を避けるなど。)したがって、それらの露出はまだ従来車両に対する露出を代表するものではない。 これらの警告を念頭に、4つの主要な調査結果を示す。 第一に、現在の最良の試算では、(100 万マイルごとに)自動運転車両は従来車両よりも高い事故率を持つ。そして、100 万マイルごとの怪我の可能性、事故による怪我の可能性も同様のパターンであることが明確である。第二に、対応する 95%の信頼区間は重なる。したがって、合理的なレベルの信頼性をもって、自動運転車両の実割合が従来車両よりも低いという事を我々は除外することが出来ない。第三に、自動運転車両は彼らに関連したどの事故においても過失が無かった。第四に、自動運転車両が関係した事故による怪我は、全体的に従来車両よりもひどくなかった。					
17. Key Words 自動運転車両、自律運転車両、車両の自動化、事故解析、FARS、GES、従来車両				18. Distribution Statement Unlimited	
19. Security Classification (of this report) None		20. Security Classification (of this page) None		21. No. of Pages 22	22. Price